



望洋荘便り



第 9 号
平成 16 年
8 月発行

感謝してこそ

—喜ばれる仕事をしましょう—

社会福祉法人 りんさく福祉会

理事長 須田 晃

限りある命。人の一生は、時の刻みによって一刻一刻、寿命が削られていきます。生まれてから死ぬまで、与えられた「時間」という資源」を如何にして活かして使うか否かでは、大きな差が生じます。

時間を無駄にしている人の多くが、心配事でかなり多くの時間をつぶしています。後悔は心配の過去形です。放っておくと、否定的な感情が時間を食いつぶし、前向きに進んでいこうとする意欲と明るく活動しようとする時間が蝕まれることにもなりかねません。

時間の有効活用をするためには、必要のない時間を知ることが大切なのです。そのためにはまず、何かをしようとする前に、

- * それは、人生のゴールや価値を高めることなのか
- * それは、健康と幸せを増すことなのか
- * それは、今やらなければならないことなのか
- * それは、いつかはやらなくては、いけないことなのか

そして、やると決めたら全力投球すること、これが時間有効活用の秘訣と考えられます。

限りある命。自分の利益や都合ばかりを優先して働き続けていると、しだいに働く喜びが枯渇してしまうものです。生み育ててくれた親、職場の先輩、そして地域への感謝。さらに「誰かを喜ばせたい」という利他の働きが、まごころを流露させるのです。

自分なりの形で地域に役立ちたいと思いつけることが、仕事への活力として、かならず湧いてくるのです。

引用文献 『職場の教養』通巻三百四十四号

すいか割り

八月三日（火）望洋荘内『七浜通り』（海を一望出来るテラス）にて、すいか割りを開催いたしました。

皆さん、メガホン片手にすいか目掛けての力強い一撃でした。最後は、今が旬のすいかを頬張りおいしく頂きました。



今は昔 第6話

戦艦『長門』

昭和の十年代海軍に籍があった。軍艦『長門』に乗っていた。

三二七〇トンの大型で長さも三〇〇メートル以上あった。世界の八大軍艦の一隻で、日本にはもう一隻『伊勢』というやはり軍艦があつて、二隻で姉妹艦と言われてた。長門は、旗艦で旗隊の司令官が乗っている軍艦でした。司令官の階級は少将で威厳があつたね。

この戦艦『長門』も瀬戸内海でアメリカに撃沈されて海の藻屑となつてしまった。

『望洋荘永崎海岸通り T・Oさんからの話を聴き取りました。』

『望洋荘』落語と歌謡ショー

七月十七日(土) 午後二時より望洋荘内『塩屋岬広場』にて、立川ぜん馬師匠による落語に続き、さこみちよさんの歌謡ショーに入居者の皆さんも楽しいひと時を満喫されました。



いわき市シルバーにこにこ学園 御一行様 望洋荘見学に来荘

七月三十日(金) 午前、望洋荘へ施設見学の為、来荘されました。濱尾事務長より、施設の概要を説明・施設内の案内を致しました。今回、お越しくださった方々は、全員老人介護に関して強く関心を持たれて居りまして、多くの質問が飛び交いました。



今月の言葉その⑧(倫理研究所編標語集から)

志は高く頭は低く



総るほど頭を垂れる稲穂かなというのではないか。中味が空っぽな奴ほど偉そうにする。間違えてはいけない、高くするのは頭ではない、人間としての誇り・志操である。

理事長の著作集より その⑨

道の半ばを振り返り

― 卒後三十年の感慨を込めて ―

須田 混

この機会に自分の五十六年を簡単に振り返ってみたいと思い、筆を執った次第です。私は現在のいわき市久之浜町に出生。山あり、川あり、東側が太平洋という頗る恵まれた自然の中で育った。両親は隣接の村（現大久町）に生まれ、公務員として勤務の傍ら、農作業を楽しんで生活していた。この地は温暖で、東北の湘南の名に価すると思つて居る。地域の人々は、星野富弘氏の詩に出てくる、純で素朴な気持ちが失われていない方々であった。

村に やぼったい人が いなくなつた ボロを着て 子供をどなり

芋の葉っぱで 涙をかみ 大声で しやべつてはいたが

愛だとか 美だとか 人生だとか 口に 出したことは なかつた

やぼったい人が いなくなつた

そして 菜の花や レンゲや 麦畑 が消えた

畔道の草を 刈る人も いなくなつた やぼったい人が いなくなつてしまつた

（星野富弘詩画集より）

幼少時代から高校を卒業するまでの十八年間は、穏やかな暖かい人達に囲まれて育つた気がする。そして、阿武隈山系の一つ、ピンクの色のアカヤシオの咲き誇る三森山のふもとから流れてくる、水量豊かな大久川を眺めては思つたものだ。この川の鮭のように、広い太平洋を伸び伸びと泳ぎ、何時の日か故郷に帰つて来よう……。

昭和三十四年、福医大に合格。胸膨らませての県都での生活。進学課程時代は、麻雀やクラブ活動に明け暮れる日々であった。ビーコン（追試）、トリコン（再追試）がべつたり脇に座つて居たようだが、楽しい毎日だった。専門課程での最初の実習「解剖学」は医学部入学を心から実感させてくれた。いまだに記憶に鮮明である。少々は医学書にも文学の冊子等にも接した六年間であつた。級友と親交を深められたこと、素晴らしい先輩諸氏に接することが出来たこと、学者として教育者としても敬愛できる教授に恵まれたことなど、枚挙に暇がない。長かつたような、然程でないような六年の後、無事卒業。

インターン（医学実地修練）は、物故会員となつてしまつたE. N. 君と二人で、東京医科歯科大学付属病院で。我々のクラスに似た気質の持ち主が多く、同時代の仲間が倍近く増えたと思つております。（現在も同級会の案内があり、参加しています。又、ここでの生活の思い出を、東京医歯大の卒後三十年誌に載せて頂きました）何とか、この年の医師国家試験に合格し、公認のホンモノのドクターになつたわけでありす。

昭和四十一年からは、大学院生として、尊敬する第二外科遠藤辰一郎教授に師事。同時に基礎的研究も必要とのご指示があり、第二生理学の博識豊かな塚原進教授のもとでご指示を賜つた。塚原教授は福医大に着任間もなくであり、福医大生としては、我々が初めての教え子であつた。兎にも角にも、研究生活は楽しかつたの一言に尽きる。特に、第二外科・第二生理学の医局員の共同研究での思い出は数多く挙げる事が出来る。中でも超音波による検査（今日これほどの隆盛を見ようとは）、誘発脳波の検査（当時は二百五十六ビットでの検討であり今日とは隔世の感あり）、脳神経外科患者の術前・術中・術後の脳脊髄液圧の検討（中でも髄液測定中の、突発的に持続上昇の状態を呈する現象ⅡプラトローウェイブⅡは、今でも思い起こす不可解な現象である。未だに解明されていないようだ）等々……。昭和五十三年三月助教退職までの十二年間、一度もトランク（学外出張）に出ることもなく、上記のような研究生活がおくれたことは幸せであつた。ご配慮くださった方々に、心より御礼を申し上げたい。

研究生活での能力に限界を感じ、臨床の第一線に出るべく、昭和五十三年の四月から一年弱、白石市の公立刈田総合病院で勤務をさせて頂いた。ここでも経験豊かな先輩諸氏に暖かくご指導戴き、医師として数多くの経験を積むことができた。慣れ親しんだ福島市での十九年に別れを告げ、昭和五十四年三月、いわき市小島町に開業。年中無休で頑張つた。昭和五十七年増築。昭和六十年付属久ノ浜医院開設。調子に乗つて昭和六十一年、塩屋崎病院開設。と目まぐるしい開業以来の十七年間であつた。しかし、振り返ってみると、あつという間の人生である。若かりし頃、広い太平洋の思いは、大久川の河口付近の海を二十年間泳いだに過ぎず、真水の味が忘れられなかつたようだ。タイトルを「道の半ばを」としたのは、残された日々が、たとえ四分の一であつたと、その期間が今まで以上に充実したものでありたいとの願望が……。

最後になるが、今日、我々医師を取り巻く環境は誠に厳しいものがあると思う。医師自身が自己中心的になり過ぎ、職業的良心を失いつつあるのが原因なのか、且また、価値観の多様化が、徒にマスキ等のもたらす情報過多に起因するものなのか。誠に難しい。インフォームド・コンセントの件一つ考えても。様々な事で論議の余地は大いにあろう。

美しく咲く 花の根元にも

みみずがいる

泥を食つて

泥を吐き出し

一生土を耕している みみずがいる

きつという

（星野富弘詩画集より）

医師として、地域に根ざした「やぼったい蚯蚓（ミミズ）」にならんことを心掛け、今後の人生を歩みたいものである。

※『それぞれの三十年』―福島県立医科大学昭和四十年卒三十周年記念誌―

平成七年十月刊に掲載から

介護老人福祉施設 『望洋荘』
職員紹介◎&コメント集



介護士 草野 由香

望洋荘に入社して八ヶ月が過ぎました。開設当初は右も左もわからず、ただ夢中に仕事をしていた様に思います。八ヶ月という月日が過ぎ利用者の方々の個々の性格も理解出来る様になり、より家庭的な雰囲気になづく様な介護をして行きたいと思っています。

利用者の方々の笑顔を、少しでも多く見られる様に努力して行きたいです。



介護士 吉田 佳子

『ありがとう。』毎日この言葉に支えられて仕事をしています。

施設で働くのが初めての私は、戸惑いと不安で一杯（一杯）でした。そんな時でも利用者さんからこの言葉を掛けてもらえると、本当にこの仕事をしていて良かったなと実感してしまいます。

これからも、一つでも多くの『ありがとう。』をもらえる様に心のこもったサービスを提供して行きたいと思っています。



介護士 四家 良二

入職してから約八ヶ月が経ちました。施設立ち上げから関わり、開所する事の大変さを知りました。その中で利用者一人一人に適切な介護が出来る様、努力して行きたいと思っています。

介護保険一口メモ ◎

★機能訓練

心身の機能が低下している人に対して、その維持回復を図り、日常の自立を助けるための訓練を行う。

ー機能訓練A型ー

病院、老人保健施設などから退所した在宅の脳卒中の患者などで、医療終了後も継続して訓練を行う必要がある人などに対して、市区町村保健センターなどにおいて、理学療法士・作業療法士・保健婦（士）などによって、歩行・起き上がりなどの基本動作や日常生活活動動作・手工芸・レクリエーション・スポーツなどの日常生活上の機能訓練に重点をおいて行う。

ー機能訓練B型ー

虚弱老人などに対して、集会所・体育館・公園など地域住民の身近な場所において、保健婦

（士）・理学療法士・作業療法士などが、レクリエーション・スポーツ・絵画・工芸などの創作を主体とした活動や、地域の諸行事への参加などを主体とした活動を中心とした訓練を行う。

★グループホーム

小規模な生活の場（九人前後の少人数グループ単位の共同居住形態）において、食事の仕度、掃除、洗濯などのサービスを提供し、家庭的で落ち着いた雰囲気の中で、共同家庭生活をおくる事により、痴呆の進行を遅らせたり家族の負担の軽減を図る事を目的に、平成九年度に創設されたもの。

★グループケアユニット

特別養護老人ホームなどの入所施設において、いくつかの居室や共有スペースをひとつの生活単位として整備し、家庭的な環境の中で少人数ごとに生活支援する形態。

（望洋荘はこの方式を取り入れています。）

編集後記

『望洋荘』便り

平成十六年八月一日発行

発行所 いわき市

平豊間字合磯三十九番地
社会福祉法人 りんさく福祉会

介護老人福祉施設 望洋荘

電話 (0246) 55-7373
FAX (0246) 55-7255